

SOKENDAI

(The Graduate University for Advanced Studies)

School of Cultural and Social Studies

Department of Regional Studies

Department of Comparative Studies

Overview '22

総合研究大学院大学 文化科学研究科

地域文化学専攻

比較文化学専攻

概要 '22

SOKENDAI 国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology





国立民族学博物館（みんぱく）は、博物館機能と博士課程の大学院教育機能を備えた文化人類学・民族学の研究センターとして、世界で唯一の存在です。みんぱくは、世界各地から集めた34万5千点を超える民族学標本資料を収蔵していますが、このコレクションは、20世紀後半以降に築かれた民族学関係の資料としては最大の規模をもちます。また、施設の規模のうえで、みんぱくは、世界最大の民族学博物館となっています。

みんぱくには、現在、53人の研究者が在籍していますが、それぞれが世界各地でフィールドワークに従事し、人類の営みの多様性と共通性、そして地球規模でのつながりの中での社会の動態について調査研究を続けています。

人類の文明は、今、大きな転換点を迎えているように思います。これまでの、中心とされてきた側が周縁と規定されてきた側を一方的にまなごし、支配するという力関係が変質し、従来、それぞれ中心、周縁とされてきた人間集団の間に、創造的なものも破壊的なものも含めて、双方向的な接触と交流・交錯が至る所で起こるようになってきています。

そして、新型コロナウイルス感染症がほぼ同時に地球全体に広がるという事態に至って、私たちは、今、人類がこれまで経験したことのない局面にいやおうなく立ち会うことになりました。その状況の中で、私たちが現在の生活を送るうえで当たり前と思って来た慣行やルール、とりわけ人類が近代に入って作り上げてきたあらゆる制度や規範の成り立ちやありようが洗い出され、その意義と存在理由が改めて問われることになっています。同時に、社会に潜在していた差別意識が浮かび上がり、世界の新たな分断の状況も生まれてきています。

それだけに、異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界の構築をめざす文化人類学の知が、これまでになく求められているように思われます。

みんぱくには、総合研究大学院大学の地域文化学専攻と比較文化学専攻が設置されています。この両専攻に所属する大学院生は、文化人類学をはじめ言語学、宗教学、生態学、先史学、芸術学、民族音楽学そして博物館学など、広範な研究領域を専門とする個性ゆたかな教授陣の指導を受けられるのみならず、上で述べた世界に冠たる資料の蓄積に身近に接することができます。みなさんが、これらの学術資源を縦横に使いこなし、新たな研究の領野を切り開いて、それぞれの分野のパイオニアとしてはばたいて行かれることを期待しています。

国立民族学博物館長 吉田 憲司

充実した教授陣

学生数をうわまわる教授陣は、学生一人一人の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また両専攻の教員は各分野の第一線で活躍する研究者であるため、最新の研究動向に基づいた指導をおこなうことができます。

豊富な情報源

日本における文化人類学・民族学関連の最大の資料類が揃っています。また、国立民族学博物館が主催する数多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通して、国内外の優秀な研究者との交流ができます。

各種の支援制度

リサーチ・アシスタント制度、インターンシップ制度、授業料免除制度、学会発表やフィールドワークの旅費の援助など、充実した研究支援が受けられます。

指導体制

個別指導と共同指導を組み合わせたユニークな指導体制を採用しています。学生には主副2名の指導教員が指名され、入学から学位取得まで、日常的な指導をおこないます。一方、ゼミにおいては共同指導体制を取り入れています。ゼミは4名の教員が担当し、研究の内容だけでなく発表方法などに関する指導をおこないます。担当教員以外の教員にもゼミへの参加を求めることができます。

スケジュール

学生は1年次において1年生ゼミでの指導をもとにフィールドワーク（現地調査）の準備をおこないます。2年次以降、指導教員の指導のもとに調査地にてフィールドワークをおこないます。そして調査終了後、指導教員による個別指導や論文ゼミでの共同指導を受けながら学位論文の完成をめざします。

専攻案内

地域文化学専攻

独創的な文化人類学・民族学を目指して

本専攻は、国立民族学博物館が基盤機関となり、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ及びオセアニアの諸地域に居住する人びとの文化と社会に関する教育研究を行っています。各々の地域の特性や歴史を考慮しながら、民族誌学的方法論に基づく文化と社会の記述、構造の解明、動態の把握を目指します。現地調査から得られたデータを分析し、理論化し、学術的な貢献と実践的な提言ができる人材を養成します。



信田 敏宏 専攻長

比較文化学専攻

比較研究を通じて文化の諸現象を解明

本専攻は、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野から構成されています。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。基盤機関である国立民族学博物館の標本資料や映像音響資料、文献図書資料等を教育と研究に活かせることは本専攻の強みです。従来の文化人類学的研究方法に加えて、隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究分野の開発を積極的に進めることができる人材を養成します。



南 真木人 専攻長

地域文化学専攻・比較文化学専攻は、2023年4月に、先端大学院先端学術専攻 人類文化研究コースに統合することを検討しています（設置構想中）。なお設置計画は予定であり、内容には変更が生じる場合がございます。詳細はこちらをご覧ください。

<https://next20.soken.ac.jp/>



地域文化学専攻 (2022年度)

相島 葉月 准教授

- ① 社会人類学・イスラーム学・中東研究
- ② 現代エジプトにおける美と身体文化に関する社会人類学的研究
日本と中東に関する文化的知識のグローバルな流通について
- ③ モダンティ、都市中流層、マスメディア、教育、現代イスラーム思想、消費、様式美、独創性、知的伝統

伊藤 敦規 准教授

- ① アメリカ先住民研究・博物館人類学・知的財産問題の人類学的研究
- ② 人類学博物館のIndigenizationに関する研究
- ③ 米国先住民、博物館人類学

檜永 真佐夫 教授

- ① 東南アジア文化人類学
- ② 東南アジアの伝統的政治社会組織に関する歴史的研究
物質文化に焦点を当てた黒タイの民族誌的研究
ベトナムにおける国家と民族の関係に関する研究
- ③ 東南アジア大陸部、ベトナム、黒タイ、白タイ、タイ系言語集団、社会人類学

齋藤 晃 教授

- ① 歴史人類学・ラテンアメリカ研究
- ② 植民地期アンデスの先住民の総集住化に関する人文情報学的研究
南米ボリビア低地のモヘニョに関する歴史人類学的研究
- ③ ラテンアメリカ、アンデス、アマゾン、植民地時代、エスノヒストリー、先住民、キリスト教

島村 一平 准教授

- ① 文化人類学・モンゴル研究
- ② モンゴル仏教のグローバル実践に関する学際・国際的地域研究
モンゴル・ヒップホップに関する文化人類学的研究
モンゴル人の輪廻転生と死生観に関する研究
- ③ モンゴル、ブリヤート、シャーマニズム、モンゴル仏教、エスニシティ、ナショナリズム、チンギスハーン表象、ヒップホップ

鈴木 英明 准教授

- ① 歴史学・インド洋海域史研究・アフリカ研究
- ② 19世紀を対象としたインド洋西海域世界の実態解明
20世紀前半のペルシア湾における拘束の実態解明
移動概念の学際的再検討
- ③ インド洋、海域世界、奴隷、奴隷廃止、移動

池谷 和信 教授 (2024年3月退任予定)

- ① 環境人類学・人文地理学・アフリカ研究・地球学
- ② 熱帯の狩猟採集文化、家畜飼育文化の変容に関する比較研究
南部アフリカにおける先住民運動に関する研究
地球環境史の構築に関する研究
- ③ 地球環境、狩猟採集民、アフリカ、東北アジア、サン(ブッシュマン)、ソマリ、チュクチ、日本、バングラデシュ、環境人類学、人文地理学

小野 林太郎 准教授

- ① 海洋考古学・東南アジア研究・オセアニア考古学
- ② 熱帯島嶼域における人類史や資源利用史に関する考古学研究
漁撈や海の利用にかかわる人類・考古学的研究
水中文化遺産を対象とした海洋考古学的研究
- ③ 東南アジア島嶼部、インドネシア、オセアニア、オーストロネシア語族、漁撈、水中文化遺産、人類史

川瀬 慈 准教授

- ① 映像人類学・民族誌映画
- ② エチオピアの音楽職能集団の人類学的研究
民族誌映画制作の理論と実践に関する研究
アフリカの無形文化の保護と継承に資する映像人類学研究
人類学研究にもとづく創作的な話法の探求
- ③ 映像人類学、民族誌映画、エチオピア、音楽職能、Ethio-Jazz、エスノフィクション、エスノポエティクス

齋藤 玲子 准教授

- ① アイヌ・北方先住民文化研究
- ② アイヌおよび隣接する民族における物と人の移動と交流
環北太平洋地域先住民の物質文化に関する比較研究
- ③ アイヌ、北海道、北アメリカ、物質文化、観光、博物館

新免 光比呂 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 宗教学・東欧研究
- ② ファシズム運動における宗教的要因の比較研究
- ③ ルーマニア、ファシズム、レジオナル、キリスト教

中川 理 准教授

- ① 文化人類学・グローバル化研究
- ② 資本主義と周縁の接合に関する人類学的研究
難民出身のモン(Hmong)と国家に関する人類学的研究
- ③ 経済人類学、政治人類学、ヨーロッパ、移民、難民

奈良 雅史 准教授

- ① 文化人類学・中国研究
- ② 中国における宗教と少数民族をめぐる人類学的研究
宗教と移動をめぐる人類学的研究
- ③ 宗教実践、国家、自律性、公共性、移動、エスニシティ、ムスリム、回族

丹羽 典生 教授

- ① 社会人類学・オセアニア地域研究
- ② オセアニアにおける紛争と少数民族に関する研究
応援に関する通文化比較
- ③ 宗教運動、紛争、開発、少数民族、応援

信田 敏宏 教授

- ① 社会人類学・東南アジア研究
- ② マレーシア先住民に関する人類学的研究
インクルーシブ社会に関する人類学的研究
- ③ 東南アジア、マレーシア、オラン・アスリ、日本、博物館、知的障害者

藤本 透子 准教授

- ① 文化人類学・中央アジア地域研究
- ② 中央アジアにおけるイスラーム実践の人類学的研究
カザフの伝統医療に関する研究
カザフの移動と社会再編に関する研究
- ③ 中央アジア、カザフスタン、ムスリム、宗教実践、伝統医療、社会再編、移動

三島 禎子 准教授

- ① 文化人類学・西アフリカ研究
- ② 国際移動に関する文化人類学的研究
- ③ 西アフリカ、セネガル、ソニンケ、商業民族、民族ネットワーク

山中 由里子 教授

- ① 比較文学比較文化
- ② 中東およびヨーロッパにおける驚異譚の比較文学的研究
驚異と怪異の比較研究
アレクサンドロス伝承の東西伝播
- ③ 西アジア、アラブ文学、ペルシア文学、博物学、想像界、イラン、ユーラシア交渉史

西尾 哲夫 教授 (2023年3月退任予定)

- ① 言語人類学・アラブ研究
- ② グローバル化と中東地域の民衆文化に関する言語人類学的研究
多元的価値共創文学の可能性に関する物語情報学的研究
- ③ 中東、北アフリカ、アラビアンナイト、ナラトロジー

野林 厚志 教授

- ① 人類学・民族考古学・台湾研究・食文化研究
- ② 生業技術の通文化比較研究
食の多元的価値に関する人類学的研究
台湾におけるエスニシティの動態の探究
- ③ 生業文化、食文化、物質文化、狩猟技術、野生動物、家畜動物、狩猟農耕民、台湾原住民族、エスニシティ、文化資源

平井 京之介 教授

- ① 社会人類学・日本研究・東南アジア研究
- ② 水俣病被害者支援運動の人類学的研究
「負の遺産」の生成に関する博物館人類学的研究
タイのコミュニティ博物館についての人類学的研究
- ③ 日本、タイ、ラオス、経済人類学、社会運動、博物館、上座部仏教、水俣病

三尾 稔 教授

- ① 文化人類学・南アジア研究
- ② 南アジアにおける多様な宗教伝統の共生に関する研究
インドのナショナリズムと宗教の関係に関する研究
インドの大衆消費社会化と祭礼の変容に関する研究
- ③ ラージスターン州メーワール地方(インド)、グジャラート州(インド)、ヒンドゥー、ムスリム、文化人類学、宗教人類学、南アジア地域研究

森 明子 教授 (2023年3月退任予定)

- ① 文化人類学・民族誌研究・ヨーロッパ人類学
- ② 人類学の記述とその社会的文脈
人類学的比較の再考
- ③ 社会的なもの、移民、ケア、場所、家族、都市、国家、EU

比較文化学専攻 (2022年度)

飯田 卓 教授

- ① 生態人類学・文化遺産の人類学・視覚メディアの人類学
- ② マダガスカルにおける漁民文化と漁撈技術
アフリカにおける文化遺産とコミュニティの相互影響
日本人類学の発達における大衆メディアの役割
- ③ インド洋、アフリカ大陸、日本、人類学史、文化遺産実践、大衆アカデミズム、情報と知

卯田 宗平 准教授

- ① 環境民俗学・東アジア研究
- ② 動物と人間とのかかわりをめぐる民俗学的研究
- ③ 自然と人間、動物利用、リバランス論、鶏飼文化、トナカイ飼養、物質文化、技術と技能

太田 心平 准教授

- ① 社会文化人類学・北東アジア研究・博物館組織行動論
- ② 韓国・朝鮮社会における文化の統合性と多様性の研究
労働現場としての博物館における組織行動と動機付け
- ③ 韓国・朝鮮、近代性、社会的記憶、物語論、世代集団、知識生成、博物館

韓 敏 教授 (2026年3月退任予定)

- ① 社会人類学・中国研究
- ② 歴史記憶と象徴に関する人類学的研究
- ③ 社会主義近代化、中国、文化遺産、観光、文化表象、記憶、聖地巡礼、英雄崇拜、漢族、シボ族

岸上 伸啓 教授 (2024年3月退任予定)

- ① 文化人類学・北方文化研究
- ② 北アメリカ北西海岸先住民社会における社会・文化変化
カナダ先住民アートに関する文化人類学的研究
- ③ カナダ、北太平洋沿岸、アラスカ、イヌイット、イヌピアット、ハイダ、社会・文化変化、先住民、アート

菅瀬 晶子 准教授

- ① 文化人類学・中東地域研究
- ② パレスチナ・イスラエルを中心とした東地中海アラブ地域で、一神教徒が共有する聖者崇敬の研究
イスラエルにおけるアラブ人市民を中心とした、マイノリティによる文化表象のありかた
- ③ 中東、東地中海、パレスチナ、イスラエル、キリスト教徒、マイノリティ、アイデンティティ、エスニシティ、文化表象、共存

上羽 陽子 准教授

- ① 民族芸術学・染織研究・手工芸研究
- ② 現代インドの手工芸文化に関する民族芸術学的研究
- ③ 民族芸術学、手工芸文化、染織研究、インド、伝統的技術

宇田川 妙子 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 南ヨーロッパ研究・性研究
- ② イタリアおよび地中海ヨーロッパの民族誌的研究
ジェンダー／セクシュアリティに関する文化人類学的研究
社会理論の批判的再考
- ③ イタリア、地中海ヨーロッパ、イタリア人、文化人類学、ジェンダー／セクシュアリティ研究、南ヨーロッパ研究、性研究

岡田 恵美 准教授

- ① 音楽民族学・南アジア研究
- ② 南アジアのマイノリティにおける音楽文化
伝統ポリフォニー歌唱の記録保存と教育資源化
- ③ インド、マイノリティ、山岳民族、ポリフォニー、音楽文化、伝承、楽器改良

菊澤 律子 教授

- ① 言語学・オーストロネシア諸語・言語研究における地理情報システム(GIS)の利用
- ② オーストロネシア諸語における統語構造の変遷
言語データを軸としたオセアニアの先史に関する学際研究
手話言語と音声言語の対照研究
- ③ オセアニア、フィジー、オーストロネシア、記述言語学、比較(歴史)言語学、比較(歴史)統語論、先史言語学、手話言語学

笹原 亮二 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 民俗学・民俗芸能研究
- ② モノの遺存の総体的把握を通じた生活文化に関する民俗学的研究
- ③ 日本、民俗学、三匹獅子舞、民俗芸能

鈴木 七美 教授 (2023年3月退任予定)

- ① 歴史人類学・医療人類学・エイジング研究
- ② 超高齢社会のエイジングフレンドリー・コミュニティ
キルトドキュメンテーション活動——アーミッシュキルトから考える
- ③ エイジング・イン・プレイス、米国宗教コミュニティ、アーミッシュキルト

鈴木 紀 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 開発人類学・ラテンアメリカ文化論
- ② 開発援助プロジェクトの人類学的評価法
博物館における先住民文化表象
- ③ ラテンアメリカ、メキシコ、ユカタン、開発援助、フェアトレード、博物館展示学

寺村 裕史 准教授

- ① 情報考古学・文化情報学
- ② 情報考古学的手法を用いた文化資料のデジタル化と情報統合に関する研究
- ③ GIS(地理情報システム)、考古学、情報科学

廣瀬 浩二郎 准教授

- ① 日本宗教史・民俗学
- ② 障害者文化に関する人類学的研究
日本近代の新宗教に関する歴史的研究
- ③ 日本、東北、九州、京都、歴史、宗教、福祉、文化

ピーター J.マシウス 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 先史学・民族植物学
- ② History of agriculture and plant domestication, with specific interests in taro (*Colocasia esculenta*), paper mulberry (*Broussonetia papyrifera*), and other plants used for food, fodder and fibre
- ③ Asia, Pacific, Mediterranean, ethnobotany, ethnobiology, plant domestication, food history

丸川 雄三 准教授

- ① 文化財情報発信・連想情報学
- ② 連想情報学に基づく文化財情報発信に関する研究
- ③ 文化財、連想検索、デジタルアーカイブ

吉岡 乾 准教授

- ① 言語学・南アジア研究
- ② 北パキスタン諸言語の記述言語学的研究
- ③ プルジャスキー語、ドマーキ語、カティ語、カラーシャ語、記述言語学、パキスタン、カラコラム山脈、ヒンドウクシ山脈

園田 直子 教授 (2024年3月退任予定)

- ① 保存科学
- ② 博物館における持続可能な資料管理に関する研究
資料の展示・保存環境に関する研究
収蔵庫の再編成に関する研究
- ③ 保存科学、総合的有害生物管理 (IPM)、博物館環境

日高 真吾 教授

- ① 保存科学・保存修復
- ② 地域文化の保存と活用に関する研究
博物館における保存処理法の研究
- ③ 日本、保存科学、保存処理

福岡 正太 教授

- ① 民族音楽学・東南アジア研究
- ② 映像音響メディアとインドネシア音楽の変容
伝統芸能の伝承と映像記録
- ③ インドネシア(スンダ)、東南アジア、映像音響メディア、民族音楽学

松尾 瑞穂 准教授

- ① 文化人類学・ジェンダー医療人類学・南アジア研究
- ② 近代化、開発がもたらすプロダクション実践の変容に関する研究
サブスタンスと身体研究
子育ての比較文化論
- ③ リプロダクション(性と生殖)、ジェンダー、インド、サブスタンス、身体

南 真木人 教授 (2026年3月退任予定)

- ① 南アジア研究・文化人類学
- ② ネパール人移民に関する人類学的研究
映像音響資料の再資源化に関する研究
- ③ 在留ネパール人、社会運動、環流する文化、先住民、当事者コミュニティ、研究資源の共有化、楽師カースト

吉田 憲司 教授 (国立民族学博物館長)

- ① 博物館人類学・アフリカ研究
- ② アフリカにおける造形と儀礼の人類学的研究
博物館・美術館における文化の表象のあり方の研究
- ③ アフリカ、ヨーロッパ、日本

課程修了の要件、学位取得までの流れ

学位取得の要件

学位を取得するためには、所定の3年限以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、所定の単位数以上を修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること（課程博士）が必要です。

学位取得までの流れ

1年次	1年生ゼミ出席
	現地調査準備
	調査計画書提出
2年次前期以降	現地調査
	調査報告、博士論文構想発表
3年次	必須履修単位取得
	博士論文草稿発表
3年次後期以降	課程博士出願
	論文公開発表会・口述試験
	最終試験・合否決定
	学位授与



研究支援

リサーチ・アシスタント (RA) 制度

教員の指示・監督の下で、研究者の補助として、研究活動に必要な様々な業務をおこなうながら給与を得ることができます。

学生派遣事業

学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこないます。

SOKENDAI 研究派遣プログラム

高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度です。

入学料・授業料免除等制度

経済的理由により入学料や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援として、入学料・授業料の免除（収納猶予）の制度があります。授業料免除については、毎年2回、授業料免除申請の受付をおこなっています。授業料免除許可者は、半期の授業料の全額もしくは半額が免除されます。

特別講義

外部研究資金調達のための申請書の書き方、論文投稿のしかたなどをテーマにした特別講義をおこなっています。

日本学術振興会「特別研究員 (DC 2)」採用数

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
採用数	3	3	4	2	1	2	2	2	2	4	0	2	2	1	2

地域文化学専攻

金丸 雄一

私は、日本列島のアマ（海女・海士）の民族誌的研究をしています。環境変動がもたらす海産資源の減少に対しアマがいかに適応しているかを、三重県志摩半島に居住しながら、定期的に参与観察しています。はじめてホンモノ＝生の海女を目にした2011年、志摩に移住しみずからアマとなった2014年から比べると、海洋環境の激変を肌で感じています。海—生き物—アマ（人）の関係をより深くとらえるため、私は総研大博士課程に進学しました。

地域文化学専攻は、国立民族学博物館（みんぱく）を基盤機関とするため、以下の大いなる利点があります。①教員数の多さ、②さまざまな共同研究や懇談会に接するチャンス、③博物館展示に常にふれられる環境、④経済的な支援制度、です。

①は、多分野に跨る先生方が院生数を遥かに超えて在籍されていること。これはゼミにも反映され、主副指導教員2名とゼミ担当4名にくわえ、ご興味をもたれた先生方の飛び入り参加？もあります。オンライン併用開催がここ2年進み、院生含め20名ほどで活発な議論が交わされています。②は館内外のまさに「プロの研究」を間近で見られること、③は国際的／学際的に多様な視座が常に得られる「土俵」のうえに研究拠点があること、と言えます。④では、私は「学生派遣事業」の支援により、予備調査費を工面できました。総研大葉山本部の各種支援制度や助成金／奨学金情報もたいへん充実しています。

最後に、私は、社会で四半世紀働いてから「学び直し」をした口です。現在は、指導教員と事務の方がたのご指導のおかげで2022年度日本学術振興会の特別研究員DC2に採用され、社会人院生から研究者への転換に挑んでおります。本専攻の間口の広さと絶好の環境に感謝しつつ、国内外からの院生仲間と過ごす日々です。



磯メガネをつけ合う
80代の高齢海女たち
(三重県志摩市、2020年)

比較文化学専攻

服部 裕規

私は、フィンランドにおける民俗楽器ヨウヒッコの再創造過程について、自身による楽器作製・演奏を踏まえて明らかにすることを試んでいます。私は教育学研究で修士課程を修了後、他大学の研究員として、対話の中で声や言葉を「聴く」ことの意味を問うナラティブ研究に従事しました。より視野を広げ、文化人類学の視点から、音の響きを作る／聴くことが開く音楽文化に接近したいと思い至り、総研大に進学しました。

総研大のある国立民族学博物館は、新たな学びや気づきに事欠きません。研究に活用できる膨大な数の収蔵品や文献資料が在るだけでなく、多様な研究領域を持つ文化人類学者たちがひしめき合い、共同研究や講演会、特別展示、一般向けワークショップ等を通して、日々新たなアイデアが生産されています。院生は、少なくとも物理的には気軽に、それらの場に参加可能で（オンライン環境も完備）、いつでも刺激的な学びを享受できます。

先輩方による研究助成金の採択実績を参照できる点も魅力です。手続きにあたって、研究協力の方がたの温かいサポートも大きな助けになります。私も学外機関の助成金を獲得できました。また、リサーチアシスタント制度も充実しています。私の場合は、博物館内外の人類学者が撮影した写真資料に触れ、未知の世界を伺い知ると同時に、写真撮影についての考察を深めました。さらに、業務の合間における先生方や他の院生らとの何気ない会話の中で、自分の研究に関する思わぬ気づきを得たり、海外の研究者を紹介していただく機会にも恵まれました。

総研大は、よりよい研究を実践するためのヒントが至る所に潜み、多様な交流を通して文化人類学を学び続けることができる稀有な場だと感じます。



ヨウヒッコ再興の第一人者
ラウン・ニエミネン氏の作製楽器
(2020年)

学位論文リスト

2006年度以降

【課程博士】

チベット・アマド地域における村落社会と信仰生活の変容に関する人類学的研究 —中国青海省海南チベット族自治州貴南県ボンコル村の事例から	拉 加 本(地域)	[2022.3.24 学術]
移民の食事に関する文化人類学的研究 —広島県在住の中国人女性の家庭を事例として	謝 春游(地域)	[2022.3.24 学術]
韓国近現代画家金煥基の南北分断体験と制作活動 —朝鮮の文化を象徴するモチーフを中心に	松岡とも子(地域)	[2022.3.24 文学]
The Kong Puja Drum: A Musical Communication in the Community of Khon Muang, Nan Province, Thailand	カンティウオン・ティティボン(比較)	[2022.3.24 学術]
包摂的かつ協働的な博物館活動に関する研究 —台湾の桃園市立大溪木芸生態博物館の実践を中心に	邱 君妮(比較)	[2022.3.24 学術]
台湾の先住民認定とエスニシティの形成に関する文化人類学的研究 —シラヤ族の「正名運動」を事例として	呂 怡屏(地域)	[2021.9.28 文学]
先史アンデス古期におけるマウンド形成の考古学的研究 —クルス・ベルデ遺跡における環境変動と集団的実践の変化	荘司 一步(比較)	[2021.9.28 文学]
ケニア沿岸部の零細漁業者による水産資源の利用に関する生態人類学的研究 —かご漁を事例として—	田村 卓也(比較)	[2021.3.24 文学]
Formation of Music of Kazakh Diaspora in Mongolia :A Case Study of the Musical Practices of Professional Performers	八木 風輝(比較)	[2021.3.24 文学]
ベトナムのモンの二元論における諸存在の制作と構成 —「常世」と「現世」の関係に着目して—	今井 彬暁(地域)	[2020.9.28 文学]
オイラド・モンゴルにおける口頭伝承とアイデンティティ—故郷創出物語から—	査 斯 查 干(地域)	[2020.3.24 文学]
中国都市部の家庭の食生活に関する歴史民族誌 —社会主義制度下(1949-2018年)の天津市の事例—	劉 征宇(比較)	[2020.3.24 文学]
神戸南京町50年の民族誌的研究—包摂的チャイナタウンの生成と変容—	辺 清音(比較)	[2020.3.24 文学]
中国新疆オイラドの宗教復興に関する人類学的研究 —寺とオワー祭祀の復活に関わる転生活仏シャリワン・ゲゲン14世—	那 木 加 甫(地域)	[2019.3.22 学術]
中国青海省におけるチベット仏教復興運動下の民間信仰の変容に関する人類学的研究 —同仁県ワッコル村を事例として—	喬 旦 加 布(地域)	[2018.3.23 文学]
近代フィリピンにおける民族衣装をまとった聖母像の研究	古沢ゆりあ(比較)	[2017.9.28 文学]
自然資源の利用に関する環境人類学的研究 —ニカラグアの先住民による商業的ウミガメ漁の事例—	高木 仁(地域)	[2017.3.24 文学]
スナックにおける言語コミュニケーション研究 —対人関係を調節する接客言語ストラテジー—	中田 梓音(比較)	[2016.9.28 文学]
日本社会の自然葬に関する民族誌的研究 —NPO法人「葬送の自由をすすめる会」を中心に—	金セツピョル(地域)	[2016.3.24 文学]
都市回族コミュニティの維持と宗教実践 —中国陝西省西安市における回族の帰属意識をめぐる民族誌的研究—	今中 崇文(地域)	[2016.3.24 文学]
韓国の地域社会における華僑のアイデンティティに関する民族誌的研究 —韓国華僑ビジネスと華僑協会を中心に—	金 桂淵(地域)	[2015.9.28 文学]
「野球移民」を生みだす人びと—ドミニカ共和国におけるトランスナショナル移民研究—	窪田 暁(比較)	[2015.3.24 文学]
モンゴル遊牧民のモノの情報をめぐる交渉に関する民族誌	堀田あゆみ(地域)	[2015.3.24 学術]
中国雲南省における徳宏タイ族の即興うたと感性の民族誌的研究	伊藤 悟(地域)	[2014.9.29 文学]
My Huaca: The Use of Archaeological Heritage in Modern Peru from a Public-Archaeology Perspective	サウセド・セガミ・ダニエル・ダンテ(比較)	[2014.9.29 文学]
ナイジェリアの都市イレ・イフェにおける「アーティスト」の民族誌的研究	緒方しらべ(比較)	[2014.3.20 文学]
変化しつづける装い—中国雲南省文山モンの自己と他者をめぐる人類学的服飾研究—	宮脇 千絵(地域)	[2012.9.28 文学]
現代アンデス農村における聖人信仰の変容—人の移動に焦点をあてて—	八木百合子(比較)	[2012.9.28 文学]
無文字社会における歴史記憶の生成と継承 —南エチオピア牧畜民ボラナにおける口承史の分析をととして—	大場 千景(地域)	[2012.3.23 文学]
カオダイ教ハノイ聖室の民族誌的研究 —ベトナム北部地域の都市における女性たちの社会関係—	伊藤まり子(地域)	[2012.3.23 文学]
周辺イスラームのダイナミズム —タイ南部村落におけるイスラーム復興運動と宗教実践の変容—	小河 久志(地域)	[2012.3.23 文学]
ヨーグルトをめぐる言説の生成と展開 —社会主義期からポスト社会主義期にかけてのブルガリアを中心に—	マリア・ヨトヴァ(比較)	[2011.9.30 文学]
オーストラリア先住民ヨルタ・ヨルタの環境管理のための先住民運動に関する文化人類学的研究	友永 雄吾(地域)	[2011.3.24 文学]
現代タイ社会における開発と僧侶 —僧侶による社会貢献とネットワーク形成に焦点をあてて—	岡部真由美(地域)	[2011.3.24 文学]
現代東南中国における宗親会の民族誌的研究—国家との関係を中心として—	陳 夏晗(比較)	[2011.3.24 文学]

農業技術改善の民俗誌—紀ノ川下流域村落の一七〜二〇世紀前半における動向の分析—	加藤 幸治(比較)	[2010.9.30 文学]
日本の先史時代における植物性食料の加工と利用—残存デンプン分析法の理論と応用—	渋谷 綾子(比較)	[2010.3.24 文学]
韓国における老人の食—老人福祉施設を中心に—	守屋垂記子(地域)	[2009.3.24 文学]
インド農村社会における不妊経験の人類学的研究	松尾 瑞穂(比較)	[2008.9.30 文学]
フェラインの民族誌—ドイツ・バイエルン州のローカル・アソシエーション—	山田 香織(地域)	[2008.3.19 文学]
水上人と呼ばれる人々—広東珠江デルタの漢族エスニシティとその変容—	長沼さやか(地域)	[2008.3.19 文学]
在米コリアンのサンフランシスコ日本町—マルチカルチャーのエスニックタウン—	小谷 幸子(比較)	[2008.3.19 文学]
参加型開発を通じた女性の自己変容過程に関する人類学的研究 —北インド農村社会を事例として—	菅野美佐子(比較)	[2007.9.28 文学]
「場」と「パフォーマンス」に関する人類学的研究 —トルコ・都市におけるアレヴィーのセマーを例として—	米山 知子(比較)	[2007.9.28 文学]
上ビルマ村落における宗教とジェンダーに関する人類学的研究	飯國有佳子(地域)	[2007.3.23 文学]
「護理」の身体技法に関する映像人類学研究—インドネシア・ミナンカバウの事例から—	村尾 静二(比較)	[2007.3.23 文学]
離散と故郷—ヨルダンのパレスチナ系住民にみられる帰属意識とナショナリズム—	錦田 愛子(地域)	[2007.3.23 文学]
「子ども域」の文化人類学的研究—バングラデシュ農村社会の子ども—	南出 和余(比較)	[2007.3.23 文学]

【論文博士】

日本手話、台湾手話、韓国手話における語彙の記述とその歴史の変遷 —数詞および親族表現に着目して—	相良 啓子	[2021.9.28 学術]
都市環境における関係性を巡る実践としての精霊憑依 —マリの首都におけるソンガイ移民の精霊憑依に関する人類学的研究—	内田 修一	[2021.3.24 学術]
グローバル化する互酬性—サモア世界の儀礼財の循環と首長制—	山本 真鳥	[2017.3.24 文学]
ベトナムにおける市場経済化の進展と地域文化の生成 —東北地方のヌン・アン集団の事例から—	チュ・スワン・ザオ	[2015.9.28 文学]
アイヌ衣文化の研究	津田 命子	[2014.9.29 学術]
先住民生存捕鯨再考—国際捕鯨委員会における議論とベクウェイ島の事例を中心に—	濱口 尚	[2013.9.27 文学]
多文化都市・新宿の生成と展開—ライフサイクルの視座—	川村千鶴子	[2013.3.22 学術]
先史アンデス形成期の社会動態 —ペルー北部ワンカバンバ川流域社会における社会成員の活動と戦略から—	山本 睦	[2012.9.28 文学]
小集落から見た初期国家の形成過程 —先スペイン期中央アンデスのワリ国家を事例として—	土井 正樹	[2012.3.23 文学]
スリランカにおけるエステート・タミルのアイデンティティと「ジャーティヤ」をめぐる人類学的研究	鈴木 晋介	[2011.3.24 文学]
活用される職祖伝承—近・現代日本における木工挽物の担い手と木地屋「根元地」—	木村 裕樹	[2010.9.30 文学]
先住民学習の理論と実践—ポストコロニアル人類学の活用—	中山 京子	[2010.9.30 学術]
シャーマニズムによるエスニシティの探求 —ポスト社会主義期におけるモンゴル・ブリヤートの事例を中心として	島村 一平	[2010.3.24 文学]
国際線客室乗務員の接客業務と勤務体制—仕事の人類学的研究—	八巻 恵子	[2009.9.30 文学]
「アイヌ風俗画」の研究—近世北海道におけるアイヌと美術	新明 英仁	[2007.9.28 文学]

年度別学位授与者数

		'91~'08年	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'16年	'17年	'18年	'19年	'20年	'21年	計
地域文化学専攻	課程博士	26	0	2	3	1	0	2	3	1	1	1	1	1	4	46
	論文博士	13	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	19
比較文化学専攻	課程博士	18	1	2	1	1	1	2	0	1	1	0	2	2	3	35
	論文博士	7	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	15
計		64	3	7	5	4	2	5	4	3	2	1	3	4	8	115

よくある質問

Q 学部をもつ大学院の教育と比べてどんな特徴がありますか？

A 教員数が学生数をうわまわるといって、他大学にはない恵まれた教育環境があげられます。教員：学生の比率はおおよそ3：2であり、個々の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また教員は各分野の第一線で活躍する研究者であり、最新の研究動向に基づいた指導をおこなえます。さらに、みんぱくが所蔵する豊富な研究資料（図書68万冊、標本資料34万5千点、映像音響資料7万点など）の利用、館が主催する多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通し、国内外の研究者との交流ができます。

Q 地域文化学専攻と比較文化学専攻の二専攻には、どのような違いがありますか？

A 地域と比較に別れているものの、共にフィールドワークを研究の根幹にしているため、共通する部分も多く、密接な相互交流があります。また、専攻間に指導上の棲み分けはなく、院生がどちらに所属していても、両専攻の教員の指導を受けることができます。

Q 二専攻で学ぶことができるのは、文化人類学・民族学だけでしょうか？

A そんなことはありません。両専攻には、考古学、民俗学、宗教学、芸術学、言語学、音楽学、博物館学、保存科学など幅広い分野を専門とする教員がそろっており、それらの分野でも研究をおこなうことができます。また、教員の陣容は年度によって変化することがあるので、希望研究内容と当該専攻の教育体制との整合性について不明な点がある方は、前もってご相談ください。

Q 受験する前に希望する指導教員をかならず決めておく必要がありますか？

A 必要条件ではありませんが、強くお勧めします。また、受験を申請する前に希望指導教員に連絡を取れば、入学後の研究の見通しを立てる一助となるでしょう。

Q 学部や修士課程で文化人類学・民族学を専攻しなかったのですが、受験はできますか？

A 正規に文化人類学・民族学を学んだ経験がなくても受験はできます。しかし、入学後に志望研究が遂行可能であるか見通しをつけるためにも、関連図書などを精読し、少なくとも人類学やフィールドワークに関する基本的な考え方について理解しておくほうがよいでしょう。これは、何をするために当専攻を受験するのか整理するためにも役立つはずですよ。

Q できるだけ早く学位を取得したいのですが、3年で取得するのは難しいでしょうか？

A フィールドワークを研究の中心に据えている分野であるため、3年間で学位を取得するのは容易ではありません。早い取得が望ましいことは言うまでもありませんが、学問の進展に寄与できる質の高い研究成果を上げ、最終学位である博士号に相応しい研究能力を養うことがより重要であり、この点に留意した指導がおこなわれています。

Q 修士課程ですでに現地調査をはじめているのですが、入学後すぐに長期の現地調査をすることは可能ですか？

A 原則として、初年度は、長期フィールドワークをおこなうための準備期間にあてられています。フィールドワークは、単に現地に行けば遂行できるものではありません。また、修士課程でフィールドワークをすでにおこなっている場合でも、博士論文執筆のための調査では、求められる調査の質に大きな差があることが多いです。入学後の一年間は、教員の指導のもと、調査計画の実現性・妥当性などについて、それまでの自己の研究成果や先行研究との関連に留意しながら検討します。年度末には、フィールドワークに向けたリサーチプロポーザルに関する発表をおこない、計画をより実現性の高いものへと練っていきます。

▼ その他の質問はこちら

<https://www.minpaku.ac.jp/education/university/information/faq>



関西外国語大学 外国語学部 准教授

私は、先スペイン期アンデス地域の古代国家の成立過程を研究しています。文化人類学と考古学の中間的な研究分野といえますが、専攻できる大学院は限られています。私のような研究テーマの学生も受け入れてもらえる許容度の高さが、総研大の魅力の一つです。

総研大の地域文化学専攻・比較文化学専攻が置かれているみんぱくは、世界最先端の研究テーマに挑む研究者がつどう研究所であり、優れた研究環境となっています。たとえばその充実した図書室では、利用したい資料にすぐにあたることができ、私の研究の大きな助けになりました。その上、みんぱくに備えられている高価な機器も利用でき、私の場合、デジタル顕微鏡や大型プリンターを利用することができました。

特筆すべき利点として、みんぱくでは、共同研究会や国際シンポジウムも多く開催されており、国内外の一流研究者と直接交流することが可能です。私自身、そのような場に積極的に参加したことにより、知識だ

土井 正樹 (2012年3月学位取得)

けでなく、海外の一流研究者と意見交換する度胸も身につきました。また、論文ゼミという授業では、多様な専門分野の先生方および参加学生たちとの議論を通じて、自分とは専門分野の異なる人たちへの研究アピールの仕方など、研究者にとって必要な実践的能力が鍛えられたと思います。先生および有志の仲間とで行った自主勉強会のおかげで、視野を広げ専門性を高めることもできました。

総研大の両専攻には、ほかの大学院にはないメリットがあります。またそれは、皆さんの行動を通じてより大きなものにすることができます。総研大を志望する皆さんにもぜひ、この素晴らしい環境を生かして、独創的かつ先駆的な研究テーマにチャレンジして欲しいと思います。



中国青海民族大学 准教授

私は2009年4月に中国・青海省から私費留学生として日本にきました。留学前は、青海師範大学で、チベット語チベット文学を専攻しました。留学後は、北海道大学に3年6か月間在籍し、修士課程で初めて文化人類学を専攻しました。そして、総研大地域文化学専攻に進学しました。日本での生活は9年間ほどになります。

私の場合、出身村の伝統文化に関心を持ち、自分とは何か、人間とは何かという文化人類学の視点で自身の出自に関わる歴史や文化などを研究したいと考えました。博士課程の研究テーマは、主に近年のチベットアムド地域の青海省一帯で見られるチベット仏教の復興運動と民間信仰の変容にかかわる問題で、青海省黄南藏族自治州同仁県ワッコル村の事例から、それら宗教にかかわる変化の実態を考察しました。

総研大地域文化学専攻の基盤機関である国立民族学博物館は、多言語による世界各地の民族学・文化人類学、民族誌、地方誌などに関する文献、映像、音声、標本資料を多く収蔵しており、世界でも有数の研究機関であると言っても過言ではありません。また、多岐にわたって民族学・文化人類学の最先端で活躍されて

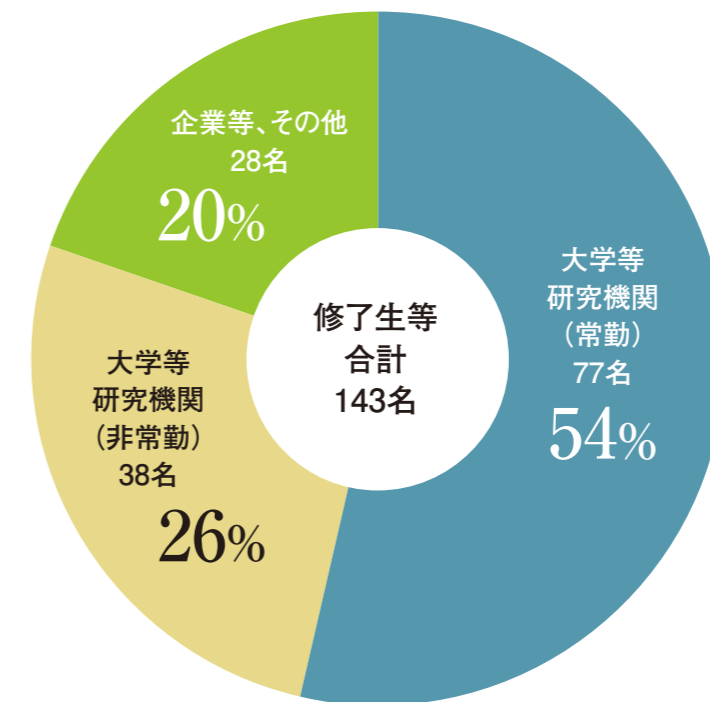
喬旦加布 (2018年3月学位取得)

いる研究者が在籍し、大学院生に対して一对一の丁寧な研究指導を行っている点も魅力です。さらに、国内外におけるフィールド調査に対するサポート体制と学術振興会、その他の助成金の申請、雑誌への投稿に至るまで、指導も充実しています。また、一般の大学より研究会や国際シンポジウムなどが頻繁に行われ、大学院生でも研究発表を行う機会も多く、自分が目指す研究にとって最高の条件が備わっていたと思います。

現在、私は中国青海民族大学の准教授として主に大学院生に対して、人類学の理論や方法論に関する知識を教えながら、大学の民族博物館の展示にも携わっています。いま考えるとみんぱくで学んできた知識が大いに役に立っており、これから総研大の地域文化学専攻へ受験を希望する後輩の皆さんには是非とも豊かな研究環境を活用して欲しいと思っています。



修了生等の進路 (2022年7月)



大学等研究機関(常勤)勤務先

青山学院大学、愛知淑徳大学、愛媛大学、大阪大学、神奈川大学、金沢星陵大学、鹿児島純心女子大学、川崎医療福祉大学、関西外国語大学、神田外語大学、京都大学、京都精華大学、京都文教大学、京都外国語大学、県立広島大学、神戸大学、神戸市外国語大学、神戸山手大学、神戸女学院大学、芝浦工業大学、四天王寺国際仏教大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、滋賀県立近代美術館、女子栄養大学、清泉女学院、就実大学、成蹊大学、大東文化大学、中部大学、中京大学、筑波大学、東京大学、東京外国語大学、東北学院大学、東洋大学、帝京大学、長崎純心大学、奈良県立大学、南山大学、日本赤十字九州国際看護大学、日本大学、阪南大学、広島市立大学、宮崎公立大学、山形大学、龍谷大学、立命館大学、上海師範大学、インドネシア学術総局、ライデン大学(オランダ)、ソウル大学(韓国)、吉林大学(中国)、青海民族大学蔵学院(中国)、中国社会科学院(中国)、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、総合地球環境学研究所

■ 入学者選抜の基本的な考え方

第一次選抜（書類審査）では、修士論文または他の学術論文等について、独創性、研究史の把握、実証性、論理性の各項目に基づき評価します。また、研究内容（研究活動の概要、これまでに行った研究の要旨、これから志望する研究）については、計画の妥当性、計画の具体性、学問的意義、発展性の各項目に基づき評価します。

第二次選抜（面接審査）では、これまでに行った研究、修士論文等の内容、これから志望する研究に関する口頭試問を通し、討論能力、語学力、研究意欲等を評価します。

書類審査、面接審査の各項目を総合的に判断し、合否を判定します。

■ 入学者選抜日程

出願資格認定審査 修士または専門職学位に相当する学力のある方は、事前に出願資格認定審査を行います	2022年11月7日（月） ～2022年11月10日（木）
入学願書受付期間	2022年12月1日（木） ～2022年12月7日（水）
第一次選抜（書類選考）・結果通知	2023年1月中旬
第二次選抜（面接審査）	2023年1月23日（月） ※予備日1月24日（火）
合格発表	2月中旬
入学手続き	3月中旬

▼ 出願書類および出願までの流れ等についてはこちら

<https://www.minpaku.ac.jp/education/university/information/steps>



総合研究大学院大学

Next20

先端学術院先端学術専攻20コース体制

2023年4月以降予定（設置構想中）

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等世界トップクラスの研究機関を基盤とする、大学院大学です。世界最先端の研究拠点を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材の育成を行ってきました。人文科学系から自然科学系にわたって、6つの研究科のもと、20の専攻が設置されており、各専攻の教育は、国立民族学博物館などの18の基盤機関のもとで実施されています。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む研究者人材を育成していくには、高度に専門的な教育リソースを、分野を超えて柔軟に活用できる体制としてする必要があります。そのため、これまでの教育体制を見直し、20コース体制へ移行する検討を開始しました。専門分野を超えた、新たな地平を創造する、次代の研究者育成を目指します。

地域文化学専攻と比較文化学専攻は、20コース体制への移行に伴い、2つの専攻を一つに統合し、新たに「人類文化研究コース」として生まれ変わる予定です（設置構想中）。

※なお設置計画は予定であり、内容には変更が生じる場合がございます。詳細はこちらをご覧ください。

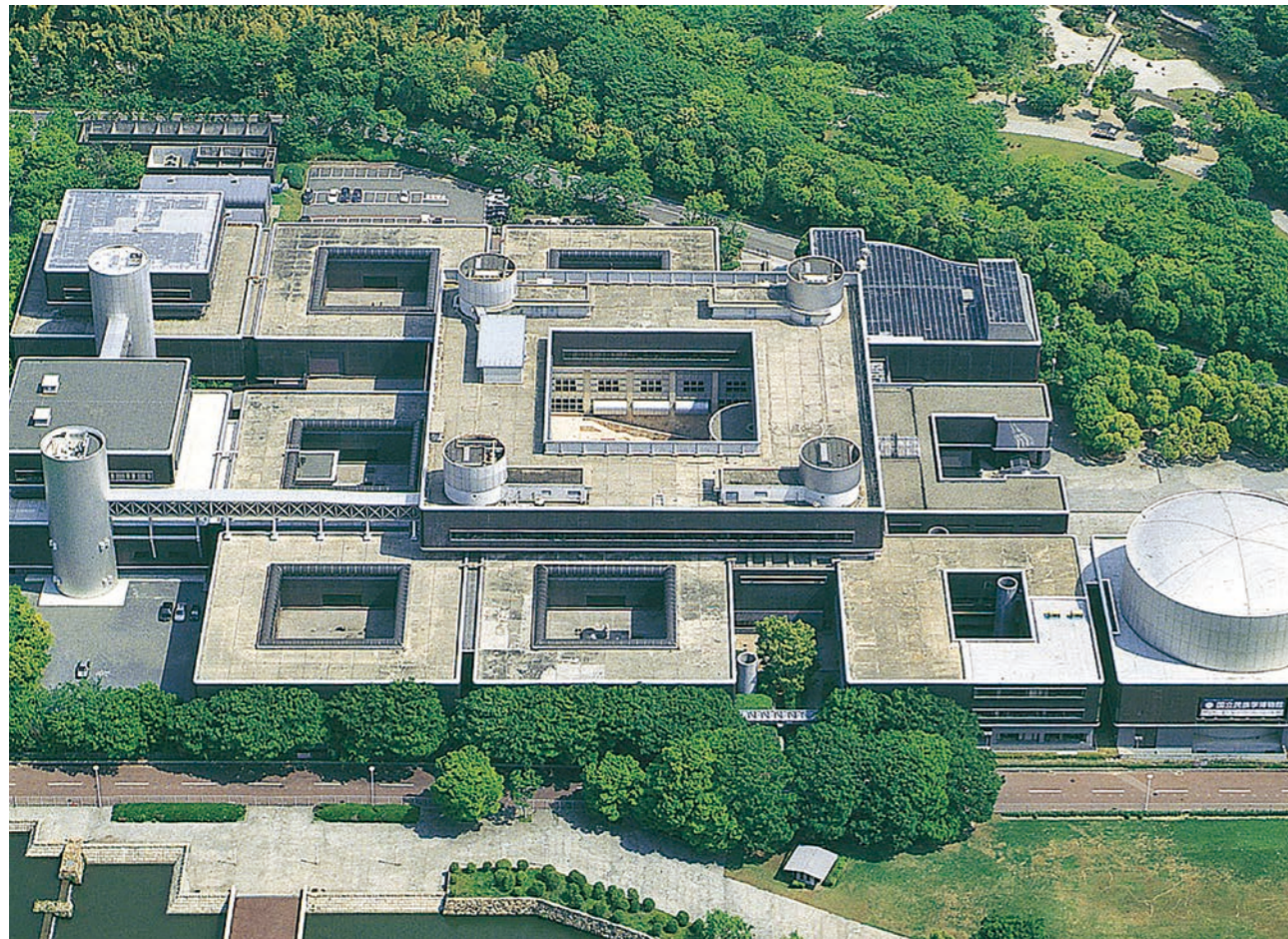
<https://next20.soken.ac.jp/>



国立民族学博物館の概要

国立民族学博物館（みんぱく）は、わが国における文化人類学・民族学の研究センターとして、世界の諸民族の社会や文化に関する調査研究をおこなうとともに、異なる文化についての人びとの理解を深めることを目的として、1974年に設立されました。みんぱくは、大学共同利用機関であり、全国の大学・研究機関との連携のもとに調査研究や共同研究を進めるとともに、学術情報を集積しています。その成果を博物館の展示やデータベースの提供などを通じて広く社会に公開することも使命としています。

みんぱくは「博物館機能をそなえた研究所」として、世界的にみても類例のない規模と機能を有しています。博物館そのものをとっても、すでに世界最大級の民族学博物館に数えられるようになっています。みんぱくの展示は、常設展示と特別展示と企画展示とで構成されており、常設展示は、世界をオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、それに日本を含むアジア各地に分けた地域展示と、言語や音楽などの通文化展示からなっています。一方、特別展示と企画展示は、特定のテーマのもとに、年に数回、期間を限って開催されます。



所蔵民族学資料 (2022年3月31日現在)

【標本資料】

海外資料	179,398点
国内資料	165,880点
計	345,278点

【映像音響資料】

映像資料	8,277点
音響資料	64,421点
計	72,698点

【文献図書資料】

日本語図書	272,631冊
外国語図書	417,562冊
計	690,193冊
日本語雑誌	10,189点
外国語雑誌	7,091点
計	17,280点



みんなくアクセス



- 大阪モノレール……「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
 - バス(近鉄バス)……阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
 - 乗用車……万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- ※万博記念公園各ゲートで、国立民族学博物館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

[お問い合わせ]

国立民族学博物館 管理部研究協力課研究協力係 (大学院担当)

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

電話 06-6878-8236 (大学院担当)

FAX 06-6878-8479

E-mail souken@minpaku.ac.jp

URL <https://www.minpaku.ac.jp/>

<https://www.minpaku.ac.jp/education/university>

